

全国統一要求（抜粋）

- 1. 全ての公共工事現場で直接工事費分の単価支払いを実現
- 2. 碎石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に
- 3. 過積載復活させるな



発行所
全日本建設交運一般労働組合
東京都新宿区百人町 4-7-2
電話 03(3360)8021
毎月25日発行
1部 50円

車持ちダンプ運転手が1日労働(8時間運転)して貰える単価(全国)

国土交通省積算単価を踏まえて(全国平均:2019年4月)

	数量	単価	金額
軽油	88L	120円	10,560円
ダンプ損料	1,350万円/10年(標準使用年数)		24,428円
タイヤ損料	道路事情(普通の道路の場合)		1,450円
諸雑費(まるめ)			1円
運転手労賃	2省協定平成31年4月一般運転手		19,101円 → (1)
	(全国平均の労務単価)		

56,040円(直工費)

〈直接工事費に関する内訳〉

- 軽油の単価は**、(財)日本エネルギー経済研究所・石油情報センターの全国平均を使用(スタンド渡し)
使用量については、国の標準積算は8時間労働、ダンプ運転時間は5.9時間、65L/日で計算しています。
したがって平成28年度から燃料の消費量は「1時間当たり約11リットル」となりました。
国交省総合政策局・公共事業企画調整課の調査(直轄工事・地方自治体)により燃料消費率が下がりました。
組合員の現場の実態は10時間拘束8時間運転になっている。
※実際組合員の平均消費量の88Lで計算しています。(実際は現場の工事内容によって異なります。)
- ダンプ損料は**、標準使用年数10年間(変更なし)。基礎価格は1,350万円(変更なし)になりました。
- タイヤ損料費は**「普通」の単価として出しています。(前年変更なし)
(現場から処理場(移動先)までの道路事情の事を差しています)
【良好とは】舗装道路その他これに準ずる良好な搬路の進行。
(731円×1.24=906円)
【普通とは】路面がよく維持されている砂利道、これに準ずる搬路の進行。
(1,170円×1.24=1,450円)
【不良とは】破碎岩の混入する搬路または河床路その他これに準ずる搬路の進行が主な工事ではタイヤ損料が著しいと認められるとき。
(2,660円×1.24=3,298円)
- 運転手労賃は**、2省(国交省、農水省)設計労務単価を適用。
[2省協定単価とは]前年度元請・下請業者が労働者へ支払った賃金台帳に基づき、調査した結果の良質サンプルの平均賃金を公共工事の積算に適用する労務単価。

〈間接工事費に関する内訳〉

車持ちダンプ運転手がもらえる諸経費の計算内訳

●56,040円(直接工事費)+間接工事費に含まれる金額(労働者の雇用に伴う経費:法定福利費、労務管理費、安全管理費など)を加算し、昨年度から積算の基準に用いられました。車持ちダンプ労働者は自らが必要経費(法定福利費等)の全額を負担しています。したがって、労働者の雇用に伴う必要経費として上積みされている経費41%を請求する計算式を組み立てました。

(1)労働者の雇用に伴い必要な経費(労務費+その他の人件費=必要経費)41%
福利厚生費等現場作業における経費の41%を加算します。
19,101円×41%=7,831円を加算します。

56,040円(直接工事費)+7,831円(間接工事費)=63,871円

車持ちダンプ運転手がもらえる単価は、上記金額に消費税(8%)を加算する。

実働8時間稼働 **平均68,980円** (落札率は加味せず、端数を四捨五入)

車持ちダンプ労働者 常用単価68,980円

積算単価

7年連続で労務単価引き上げ ダンプの経済闘争に活かそう

全国ダンプ

国土交通省は、毎年新しい公共工事設計労務単価とダンプの車両費、タイヤ、燃料価格など市場価格を反映した積算された価格で公共工事を発注しています。全国ダンプ部会はこれを踏まえて、ダンプの常用単価(福利厚生費を含む)を計算したところ、全国平均で68,980円(税込)を計算し

となりました。直接工事費は、全国平均で約5万6千円です。しかし、7年連続(2019年度は3月から前倒しで実施)で引き上げられた積算労務単価は、現場で働くダンプや建設労働者に支払われていません。全組織がダンプの単価引き上げに向けた経済闘争を旺盛に取り組みましょう。

国土交通省は7年間連続で積算労務単価の引き上げを実施し、「車両費、タイヤ、燃料」などのダンプを使用する際に係る必要な経費等の実態を反映し予定価格を積算して公共工事を発注しています。組合がこの積算方法を踏まえダンプの常用単価を計算すると図表のようになります。

軽油価格は、リッター120円(4月時点・税抜き)で計算します。燃料使用量は要求アンケートの実態にもとづき8時間稼働(10時間拘束)で計算しています。ダンプの車両価格、タイヤ価格については今年度の変更はありません。労務費単価(賃金は、ダンプの場合は一般運転手とし

て扱われています。昨年よりも全国平均で769円引き上げられています。これらを含めた費用「56,040円」が直接工事費となります。国交省は2013年から労働者を雇った際の必要経費(社会保険、労災保険、年金、交通費等)について労務単価の41%相当分を上乗せでき

ることを示しています。この金額を加えてダンプ労働者の2019年度(平成31年)常用単価の全国平均は68,980円(税込)となります。この計算方法はこれまででも国交省交渉や国会質疑での大臣答弁、全国キャラバン要請行動での各発注当局からも認められています。

またダンプの場合は、53年前に発生した「愛知・猿投ダンプ事故」を契機にして、国会でダンプ規制法が制定される際の審議においても、過積載などの交通違反や重大事故を抑制する手段として、「社会経済構造の改善」が審議され、12条団体(交通安全推進団体)の設立が盛り込まれました。さらに25年前の道交法改正時にも同様の指摘を受けています。ダンプにおいては、担い手及び交通安全の確保を目的とした単価改善措置が必要となつていきます。

一方で昨年度から「日建連」や国交省は週休2日制導入を推進していますが、稼働日数が減れば売り上げの減少につながります。依然として国交省は、ダンプの低単価改善について直接メスを入れようとしていません。全国ダンプ部会が取り組んできた使用促進・職場闘争を前進させる必要性と条件が広がっています。情勢を活かし、ダンプ単価の改善を実現しましょう。

外国人労働者と団結し 偏見・差別をなくそう

組合員紹介

栃木ダンプ支部 ナンディカさん

栃木ダンプ支部に所属し、ダンプ労働者として働くスリランカ出身のナンディカさんを紹介します。ナンディカさんは6年前に来日し日本人女性と結婚し、当初は工場で働きましたが外国人にたいする偏見を感じて退社しました。より高収入を求めて運転免許の取得にチャレンジしました。当初から教習所には行かず、日本人でもむずかしい運転免許試験場での飛び込み取得に挑戦して大型は5回目、けん引車は10回目で合格することができました。

その後はハローワークでダンプの仕事を探し、3年前からダンプ持ち込みで仕事をしています。当初は道がわからず、一緒に働く日本人から怒られる毎日「何度もやめようと思った」と言います。外国人に対する差別や偏見も度々感じました。しかし、母国でナンディカさんからの送金を待っている母親のことを常に思い、これまで我慢して頑張りました。

いまでは日本での暮らしにも慣れ、ダンプ仲間もできました。「私は日本語が読めない、書けない、いろんな役所の手続きや制度もよくわかりません。私のような外国人労働者にとって組合はとも頼れるところですよ」「同じ働く仲間と認めてもらいたい」とナンディカさんは言います。

今年2月6日に都内で開催された建設首都圏共闘会議が主催する19春闘決起集会で、外国人労働者の立場からナンディカさんに現場の実態と自らの体験談を発言してもらいました。「燃料代も高いし、働いても手元に残るお金は少ない。消費税10%増税は反対で

す」と述べ、「国籍など関係なく、同じ人間として安心して働いていける業界にするために皆さんと一緒に頑張りましょう」と参加者に呼びかけ、会場内の参加者から共感と賛同が多く寄せられました。

結果と団結を強化し 要求闘争を推進しよう

関東ダンプ

4月14日(日)、第18期関東ダンプ総会が埼玉県戸田市・戸田市文化会館で行われ、6組織24名が参加しました。冒頭、山内議長(栃木ダンプ)は「新しい元号」を迎える中で、ダンプをめぐる情勢の変化に触れ、「バブル崩壊による経済不況、道交法改正や排ガス規制などを団結し、乗り越えて来られました。今後も増税やインボイス導入など厳しい課題もあるが一緒に奮闘しましょう」とあいさつしました。議案提案では、高橋事務局長(神奈川県ダンプ)が経過を報告し、「新年度方針では、「組合員拡大」、「要求闘争」の強化を提起しました。討論では、「県内の道路改善の提言活動をおこない、枝払いや道路標識の修繕を実施できた(栃木)」、「今年から使用促進の現場では単価5万円を要求している(埼玉南部)」、「就労の取り組みを推進している。生協労組と連携して弁当の宅配労働者も組織化している(神奈川)」、「過積載問題を取り上げ、自治体に改善を求める(千葉)」、「新年度単価を活かし、5万円に統一して県内業者へ要求する(群馬)」など参加した各組

織の代表が取り組みを発言しました。

役員体制
議長 長 山内 健人
副議長 長 矢具野 卓哉
同 横坂 英治
事務局 長 高橋 英晴

**故辻猛委員長の遺志を継ぎ
被災地・岩手に松を植樹へ** 北陸ダンプ支部

東日本大震災の被災地支援を続けてきた北陸ダンプ支部前執行委員長の故辻猛さんの想いを胸にして、今年5月、同支部の嶺北分会の組合員らが中心になって、被災地・岩手県陸前高田市を訪問し、「奇跡の一本松」で知られる名勝・高田松原にマツを植樹することにになりました。辻さんは震災発生してまもなく、新聞やテレビ報道等で市街に散乱した流木や家屋のがれきを見て、人力での撤去は困難と

高田松原にマツ 遺志継ぎ植樹

17年6月に膝臓がんを判明し、余命1年と宣告されたから、被災地を巡る気持ちには変わらなかった。岩手県陸前高田市(00)に「陸前高田に行きたい。まだ5年は生きたい」と繰り返していた。昨年5月には、北陸ダンプ支部の仲間と2年ぶりに現場を訪れて交流を予定していたが、その約1か月前に亡くなった。

辻さんは生前、撮影用の写真を自ら準備していた。被災地で活動する写真を背に、豪快に笑っており、被災地で「親分」と呼ばれていた人柄をしのぶ。一枚だ。日々を数日前まで入手が足りない」と応援の要請があれば、ダンプカーを運転していたはずと責任感の強い辻さんだったが、ひびみさんは「自分が動ける

震災復興に尽力した故辻猛さんを紹介する新聞報道 (3月11日付読売新聞福井版)



差別・偏見に負けず、献身的にダンプで働くナンディカさん



団結を固め、さらなる奮闘を決意した第18期関東ダンプ定期総会 (4月14日埼玉県戸田市内)

考えて10トンダンプやパワー

シヨベルなどの重機ボランティアを組織しました。その後、被災地の復興が進む中でも、約7年間にわたって物心両面の支援を続け、被災地の方々は「福井の親分」と慕われていました。そのような折に一昨年6月にすい臓がんが見つかり、病と闘っていました。昨年5月には、嶺北分会の組合員が辻さんと共に被災地を訪問して交流する計画を立てていましたが、同年3月30日に志半ばで亡くなられました。

今回、嶺北分会の山田満さんが中心になって、昨年、辻さんを連れていけなかった陸前高田市の訪問を改めて計画親しくしていた被災者の方々と相談し、高田松原にマツの苗木を植樹することになりました。辻さんの妻・ひびみさんが遺影とともに現地へ行き、植樹をおこないます。